

平成28年度 大宅中学校教育について

京都市立大宅中学校

校長 棕本 久雄

学習指導要領や京都市の学校教育の重点の趣旨を踏まえて教育目標を設定しました

【学校教育目標】

「人、物、時を大切にし、志ある豊かな心を育み、
確かな学力の向上を図る」

【目標設定の理由】

- 大宅教育の基盤を「生徒ありき、その前の人ありき」と捉え、生活の基本である自己・他者を大切にする心、物を大切にする心、規則正しい生活を大切にする心を育みたい。
- 将来の自分自身の生き方について、自己実現の手段として、キャリア教育の推進、体験的教育活動の推進から学習へのモチベーションを高め、基礎的・基本的な学力のみならず、課題解決的な学習や探究活動を身につけさせるとともに、常に人のためにという心を持ち続けさせたい。

＜目指すべき生徒像＞

○ より良い生き方を考え、判断し、行動できる生徒

1 笑顔であいさつができる生徒

わたしたちの生活の中で、最も基本となるものが「あいさつ」です。基本的な生活習慣が確立した、心身ともに健康で、元気な笑顔で挨拶ができる生徒を育てましょう。

2 学習に集中できる生徒

「継続は力なり」。1時間1時間の授業を大切にし、また、家庭学習の習慣化が図れ、毎日の学習に集中できる生徒を育てましょう。

3 思いやりのある、いじめを許さない生徒

他者への思いやりが持てる生徒は、自己をも大切にできる生徒です。また、自己を厳しく見つめ、いじめをしない、させない、見過ごさない生徒を育てましょう。

＜目指すべき教師像＞

1 指導力の向上に努める先生

教師経験の多寡にかかわらず、常の自己研鑽、自己変革に努め、教師としての資質向上に努める先生。1時間1時間の授業を大切にし、「授業のめあて」「振り返り」を提示し、指導力の向上に努める先生。

2 生徒、保護者に丁寧な対応ができる先生

ひとりひとりの生徒の家庭環境や保護者の思いなど、背景は異なるが、それゆえ生徒や保護者の思いをしっかり受け止め、また大宅中の教師としての思いをしっかり伝えることができる先生。生徒たちだけではなく、保護者との人間関係構築に努める先生。

3 教職員体制（チーム）を意識して行動できる先生

我々教師の仕事は、学年や教科、分掌など、常に複数の教員体制で普段の職務が遂行されている。教師一人で判断するのではなく、常にチームとしての「報・連・相」を忘れず行動できる先生。

上記した目指すべき姿を具現化するためには、生徒も教師もともに切磋琢磨して努力する必要がある。

「元気なあいさつができる　　時間を見つける　　人の話をしっかりと聴ける」

を様々な場面で、特に全校集会、学年集会、生徒会活動等で共通して指導にあたります。